

アルパックニュースレター 地域計画・建築研究所



吉野の桜です。4月7日、8日と竹林院に泊まって桜を満喫しました。
写真は、上千本、花矢倉という所からの桜です。

アルパック ニュースレター もくじ

| | |
|------------------------------------|----|
| ・ 学研都市 10 年 奥田東先生と語る(その4) | 2 |
| ・ 楽しい話 小さな町なりに頑張るコミュニティ活動 | 3 |
| ・ 列車CIをねらう「ゆふいんの森」-JR九州の試み- | 6 |
| ・ 「なぜ」を問う | 7 |
| ・ 江戸神輿と神輿同好会 | 8 |
| ・ 新人紹介 | 9 |
| ・ 新刊旧刊書評紹介「小盆地宇宙と日本文化」 | 11 |
| ・ まちかど | 12 |

学研都市 10 年 奥田 東先生と語る〔その4〕

三輪 泰司

先日、4月9日、京都ロイヤルホテルの地階にある“茶壺夢・六六”の10周年の会で、奥田先生とお会いしてお話しました。先生もこのサロンで、昭和62年に「関西文化学術研究都市について」と題して、スピーチをされています。

学研都市の構想スタートの時期には、財界団体、大学、役所、要請のあった所へは、どこへでもお話しに行きました。そのような時、先生と「“アレは知っている、アレは私がやったのだ” そう言う人をどれだけ増やすかだ” そのような人が大勢でき、動いていったなら最初の‘仕掛け人’後でニコニコしておればいいのだ、と話していました。「そういう時になったなりましたなァ」と先生と話しあえるようになりました。何処でも何でも、初めの“火を付ける”時があり、その人が居るものです。アメリカでもそういう人に、巡り会いました。

ロメオ・ゲストの情勢

関西学研究都市は、ノース・カロライナのリサーチ・トライアングル・パークと中身は違いますが“進め方”の参考にしています。ここは5年をおいて2度訪問しました。学研都市構想を始めて2年目の1979年10月の最初の訪問で、ラッキーなことに、ロメオ・ゲストに会うことができました。RTPの仕掛け人です。貧しいノース・カロライナを救うすべを考え続けていた彼は、カリフォルニアからの帰途、飛行機から見ていて啓示を受けました。“それはリサーチ・トライアングルだ！”と。MITで同級の友人、ビル・サンダースがまづ助け、ホッジス知事が支持し、始めは何のことか判らなかつた大学も彼の熱意に動き、組織が出来ました。“スプートニク”ショックから“ニューフロンティア”へアメリカが蘇り始めた時でした。

ロメオから学んだのは「産・官・学連合」の方法「天の時・地の利・人の和」の条件、「無私の奉仕」そしてそれを支える情熱でした。関西学研都市の秘密は、奥田懇談会準備会から調査懇談会へ、さらにそれらを支援して下さった方々の無欲の情熱です。

今年2月の大阪技術振興協会20周年記念シンポでは、関西学研都市をボランティアズ＝主意型・提言とボランティア＝奉仕型・方法の結合が評価されていました。

創造のフィールド

奥田先生は“この学研都市の推進そのものが創造であり、この都市そのものが研究のフィールドである”とっておられます。自然保全から高齢社会の在り方まで、また、計画・建設・運営の総てを通じて、社会に役立つ創造的な研究が期待されるのです。

さて、学研都市10年、私自身の動機と得たものを知る時期です。動機は南山城への愛着と創ることです。もともと建築家は“広く浅い知識”とイメージへ向かって進む、演繹的な発想法を得意としています。奥田懇談の「提言」起草にたずさわって、先端科学から文化芸術まで、無茶苦茶に知識の幅を広げることになりました。1966年から3年間の「21世紀の設計」の経験も土台になっています。

都市や地域は50～100年かかって出来ません。

学研都市はまだ始まったばかりです。最初から、「リザーブ」用地と目していた祝園の弾薬庫もあります。地域に根ざして創造を続ける仕事はいっぱい残っています。

(みわ ひろし)

楽しい話

小さな町なりに頑張るコミュニティー活動

尾関 利勝

いつでもどこでもどこまでも（キーワードその1）

情報は必要とする人にはいつでもどこでもどこまでもサービスします。こんな粹なせりふを人口たった 8297 人（昭和 63 年）のまち川島町のふるさと史料館で聞いた。

川島町は岐阜県と愛知県の県境・木曾川の中州に出来た町で、古くから川と闘いながら生きてきた町である。岐阜県内に位置しているものの、広い木曾川の愛知県寄り有って、犬山市、江南市、一宮市などと隣接しているため町民意識は愛知県志向が強い。名古屋までは 1 時間以内で行けるので通勤者も多いと聞いた。

元々中州に出来た村だったから米を生産することは出来ず、川とともに生き、隣接する愛知の市町村と一帯に繊維を主産業としてきた貧しい村であった。その代わりこの村の人は近郷にも評判の働きぶりで、川島には嫁をやるな、嫁をもらえと言われたほどという。

町になったのは昭和 31 年、昭和 34 年には伊勢湾台風の被災も受けた。昭和 38 年には製薬会社のエーザイが進出し、町にも随分活気が出てきた。

この町に社会教育と福祉の複合施設の川島町民会館ができたのは昭和 58 年の事だった。5 階建ての 4 階に前述の、ふるさと史料館がある。

親しみ易さの経営意識（キーワードその 2）
でつくられた町民会館

施設の概要は、敷地 3554㎡、建物 5 階建、延床 3196㎡で、内 1、2、5 階が生きがいセン

ター（老人福祉法第 14 条に基づく老人福祉センター）、3 階がほんの家（図書館法第 2 条に定められた公共図書館）、4 階がふるさと史料館（歴史民族資料館建設費国庫補助要項による、博物館類似施設）となっている。

施設名には町民の親しみ易さを配慮して、できるだけ平仮名が採用されている。故郷をふるさととし、資料館を史料館としたのも、単なる資料展示ではなく、生きた町の歴史にこだわってのことだそう。

職員は館長以下 6 名と 2 名の嘱託計 8 名で会館の運営に当たっている。福祉と教育の複合施設だが、職員は役所の縦割りにこだわらず、兼務で両方の分野に取り組んでいる。図

川島町民会館



ふるさと史料館展示室



書館があるので司書の資格を持った職員が2名いる他は、特別の専門職はいない。施設によって利用日のピークが違う。そんな時は職員総出で取り組む。そのためメンテナンスなどの管理業務はあらかじめ外注にしているようだ。

この会館では、毎年10ページの概要と200ページの年報を出している。概要は経営概要と書かれている。経営と書くのは町長さんの姿勢だそうだ。内容は1年間の活動記録と利用者状況などだが、ほんの家のところでは、利用率にもとづき、町民が得た情報サービスを金額で、税金と比較した簡単な計算が出ている。どれだけ高い経営効率（即ち町民の利用率）を発揮するか厳しく町長さんに問われる、そのためだけではないが、職員の人たちは町民の利用を高めるため、限られた予算の中で様々な努力を積み重ねている。

年報は1年間の活動の全記録を克明に残している。役所の人間はいつ配置替えて代わるか分からない。その度にノーハウがとだえては困るので記録を残しているのだそうだ。

複合と複事的取組み、ネットワークで質を高める（キーワードその3）

町民会館は主に3つの機能で構成されている。老人福祉と社会教育で少し違ったニュアンスがあるが、それぞれを複合させたいまい使いかたをしている。

内藤記念くすり博物館



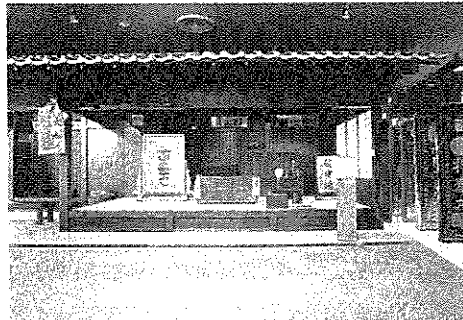
たとえば、史料館と図書館が一緒にあることによって相互の史料性が生きてくるとか、史料館の活動にとって、老人福祉施設があることで、お年寄りから聞き取りがしやすいとか、えてして地味になりがちな史料館の展示だが、町民会館は年間1万人の利用者があるから、町民の見る機会が多くなるなど様々な面でのメリットがある。

また、史料館は専門の学芸員を置かず、企画・運営総て町職員が携わっている。専門家がいらないため、往々に深みが足りないと担当者は自覚しているようだが、その不足を補い、質の高い活動にするため、施設の複合性を生かすだけでなく、複事的取組みを重視している。たとえば、野鳥展と合わせてバードウォッチングの会を開催したり、町内の史跡めぐりの会やもちつき会などふるさと教室を開催している。予算不足を補うため、他所での展示を借りたり、企業や個人のコレクター、他の資料館の協力を得るようにしている。

資料館流行りの時代だが、これからはどこでもおなじような資料を集めるより、ポイントを決めて、資料館同志のネットワークをつくるのが重要だと担当の方が言っていた。

「ほんの家」では、登録制度（個人の趣味を含む）を行っている。現在250件程の登録があり、毎月数10ページの町外を含めた情報を提供している。町内には無くても、名古屋

薬屋復元



を始め周辺には質の高い文化がいくらでもあ
る。これに触れ合うこと、その情報を提供す
ることも町民サービスの一つだと考えている。
意欲のある人にはどこまでもが重要だ。社会
教育の考えかたは、いつでも、どこでもに加
えて、どこまでもが必要だと若い担当者は力
説していたのが印象的だった。

博物館ではちょっと有名な町、川島町

町民会館から車で5分程のところ、緑の
林に囲まれたエーザイ川島工園がある。エー
ザイの工場だが、公園的な環境づくりの中に
日本庭園や薬用植物園、研究所、博物館があ
る。この博物館は内藤記念くすり博物館と言
って、日本の医学・薬学の発展を中心とした
展示（エーザイにこだわらず主だった日本の
メーカーの薬も展示してある）、資料収集、
会議場（300名、52名2室）を持った本格的
なスタイルの企業博物館でもある。博物館だ
けの見学なら随時可能であり、その他は前以

て申し込めば利用出来るようになっている。

ちなみにアルバック名古屋の調査（日本博
物館協会資料等参考）によると、名古屋都市
圏は博物館の多い地域で、中部5県で433施
設（日本の18.6%）、関東1都7県で498
（21.4%）、近畿2府4県で265（11.4%）
となっており、人口・経済諸指標に比べて高
い水準になっている。中部5県の中でも岐阜
県は111施設あり、長野の124について多い。
ちなみに東京都は172、愛知県は95、大阪府
は46となっていることから見ても、この地域
の博物館の多いことがご理解いただけると思
う。

博物館に少し詳しい方にはくすり博物館は
有名になっているが、その横にある小さな町
の史料館も地味だがなかなか立派な運営がな
されていてちょっと感動してしまった。

所在地・ルートなど知りたい方にはお教え
します。 （おせき としかつ）

お便りありがとうございます

「ニュースレター34 ありがとうございます
しました。「富山県コロンブス計画」こうした
活動情報がニュースレターを通じてかかわ
りのある人々へ伝えられるのは素晴らしい
ことです。人が何を考えそれをどう行動に
表わしているかを数でなく一人ひとりの動
きとして知ることは総てのはじまり。これ
こそが地域の財産目録ではないでしょうか。
しかもこれは動産ですからかけ合せつなぐ
ことで大きくもなるし……。

望月照彦さんのセミナー報告もその内容
が活き活きしていることを想像させる明快
な紹介でした。ここでも私が何を考え何を
したかが語られている。多摩ニュータウン
にこの4月開学する多摩大学で教育に参画

されるとかかっていますので、いっそう
興味深く読ませていただきました。

毎号刺激的な情報をありがとうございます
です。これからもよろしくお願い申し上げま
す。」 御船 哲

あたたかいお便りをいただきました。こ
れからも「地域の財産目録」をふやしてま
いります。

今後一層期待にそえるように頑張りたい
と思います。ご支援のほどよろしくお願い
します。

列車CIをねらう「ゆふいんの森」
 - JR九州の試み -
 内村 雄二

3月のダイヤ改正後、全国にたくさんの新
 型列車が走りだしました。東海道・山陽新幹
 線にはグランドひかり、常磐線にはスーパー
 ひたち、北陸線ではスーパー雷鳥等いろんな
 列車があり、ますます楽しい旅ができそうで
 す。

私事で恐縮ですが、改正後の時刻表をみた
 とき、驚いたことに私の田舎の九州の久大線
 という山間のローカル線に「ゆふいんの森」
 という特急列車が新しく登場しているではあ
 りませんか。

九州出張の折、運よくこの「ゆふいんの森」
 に乗ることができましたので、簡単にご紹介
 します。（人気が高く切符は5月までいっば
 いでしたが、ちょうどキャンセルがでたので
 乗れました）

今や全国的な観光地となった湯布院の名を
 付けられたこの列車は、ヨーロッパ風のフォ
 ルムにモスグリーンのボディがなかなか粋
 です。列車のBe-1とでもいった感じです。
 客車は中2階の高さで、床は板張りになって
 おり、照明が白熱灯で落ちついたインテリア
 を演出しています。座席に座るとおしぼりと
 しゃれた軽食のメニューを、かわいいコンパ
 ニオンが持参してくれます。乗客のほとんど
 はいわゆるギャルで、中には家族づれや年輩
 の方の姿も見えました。（全国から観光客が
 車内で配られたメニューの一部

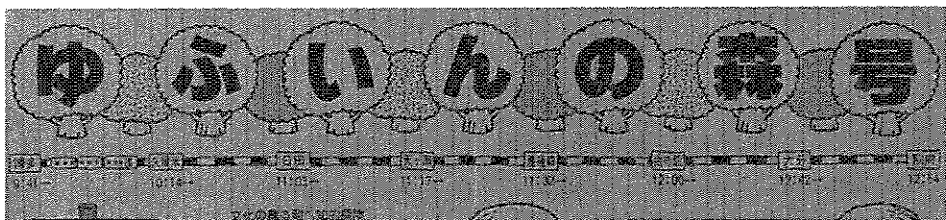
来ています）

急行しか走らなかった久大線に特急が走れ
 ばなーと思った子供の頃の夢が、およそ20年
 たった今かなえられました。これもひとえに
 湯布院のおかげだと思いました。というか、
 今日の湯布院をつくりあげた人々の努力とそ
 のへんをうまく活かしたJR九州の地域サー
 ビスに感謝するべきなのでしょう。

うまくいけば「ゆふいんの森」は沿線地域
 の新しいアイデンティティになるような気が
 します。むかし、野山を駆け抜けるSLをみ
 て夢や冒険心をそそったのと同じように、現
 在住んでいる地域の人達に新しく明るい刺激
 を与えてくれそうです。（田舎は過疎等何か
 と暗い話題が多いのです）

湯布院のように努力したまちの名前を付け
 た列車が、あちこちで走るようになれば楽し
 いだろうなと思います。ソフトな意味での地
 域アイデンティティとなることと、全国との
 交流を促進するレールネットワークづくりと
 を併せもつことが、列車のCIに必要だと思
 います。（うちむら ゆうじ）

粋なスタイルの特急「ゆふいんの森」



「なぜ」を問う

カテリナ・ナガミネ

私は日系ブラジル人で昨年からアルパックで仕事をしており、この間「あなたの都市の国際化の現状はいかなるものであり、今後における課題は？それにはどの様に対応していかれますか？」といった質問を中心に、国際化方策に関する「他都市事例調査」を進めてきた。他都市事例調査は、国際化方策などといった試行錯誤の段階にあるものについては、欠かせないものとなっている。これは、日本の一般的な方法であるようで、国家レベルから都道府県、市町村、或は、一家庭内に至るまで「他ではこのようにやっているからこちらでも……」といった展開である。

それは、歴史を重ねるにつれて、日本人が得た一つの生活の知恵であると思う。ゼロから出発するよりも、他の者のやり方を踏まえる方が、結論は早く得られる。

しかし、現在ではその方法には問題があるのではないかと思う。

いつごろか、日本社会は「単一民族性による単一意識」を掲げるようになり、他人に通用するものは、己にも通用する、という考え方が、その結果として表れている。即ち、殆ど「なぜ」と、己に問い返すことを忘れてしまっているのではないかと思う。

そのようなことを痛感したのは、先月、札幌市の国際交流室を訪問したときであった。札幌市は昭和40年代の半ば以来、「北方圏構想」の中核都市として発展し、コンベンション都市としても、そのオリジナリティによって名高い。即ち、官・産・学・民の連携を、非常にバランスのとれた形で行い、その連携は「札幌方式」と名付けられたほど特徴的である。

調査のお願いを電話でしたところ「私たちは、留学生交流推進方策について、といった調査内容には答えられないと思いますが。」

と、言われたが、せめて全体的な国際化への取りくみについて聞かせてもらおうと札幌市まで足を運ぶことにした。

そこでは、色々な発見があった。第一に札幌市は、何についても「他都市事例調査」を行っていないことである。それは、各都市がそれぞれの事情や、人的・物的資源などがあって、それらに見合った解決方法や方式を産み出しており、札幌市においても「内を見れば内にとって最も適切なものが見出せる」ためである。逆に、他都市が札幌市の「まね」をしても通用しないということである。

第二に、札幌市は「小さい政府」を実現している。官・産・学・民連携の「札幌方式」の理解につながるが、それらの間における役割分担は明確にされており、各々任せられた役割を深く追及し、確実に果たしていることである。即ち、「行政の役割は、公共的な基盤整備を行い、こまやかなサポートを常にできる体制を組む」ことにある。第三に、異例に、行政として徹底的にソフト先行型の方策を推進していることである。即ち、内部においても、外部に対しても、情報をこまやかに交流することを柱にしている。「情報さえあれば、誰でも行動がとれる」というスタンスである。

北海道人は、その環境の厳しさと開拓の歴史を背景に、開拓者には欠かせない自立心と協力心、そして自分に問い返すことを身につけている。それは、多少時間を通やしても、確実に、己しか持てないオリジナリティを生みだし続けているのではないだろうか。

(カテリナ・ナガミネ)

江戸神輿と神輿同好会

金子 喜則

5月になると、東京のいたるところで祭りが行われます。東京の祭りは、浅草三社祭、神田祭りに代表されるように、江戸神輿が主役になります。その神輿を担ぐには、約150名の担ぎ手が必要となり、担ぎ手の大半が同好会に入会しています。“セイヤ セイヤ”のかけ声に合わせ、左右規則的にステップを踏む足さばきは、江戸神輿独特のもので、神輿を見る人の目を楽しませてくれます。

同好会の全国組織としては、江戸神輿連合会という中心組織があり、各都県に支部があります。また各同好会とも、会長をトップにした縦割り社会を形成し、会長の権限は大きなものとなっています。

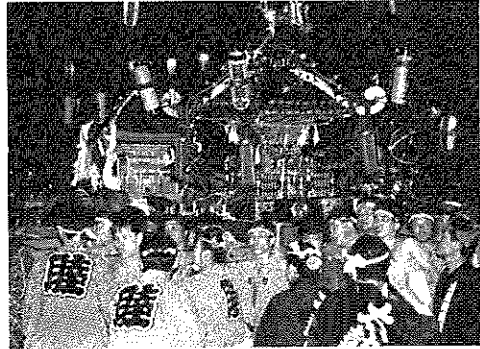
ところで、祭りに多くの同好会が集まってきます。祭り自体は町会で主催するわけですが、町会には必ず、町会付きの同好会があります。町会付きの同好会は、他の同好会に応援を頼み、同好会を集めるわけです。

また、町会付きの同好会には、担ぎ手集めの他にも、神輿の管理、同好会の世話などの仕事があります。当然のことながら喧嘩は御法度ですので、特に花棒取り（神輿の真中二本の担ぎ棒）で、喧嘩が行らぬよう気を配っています。花棒は神輿で一番目立つ場所です。担ぎ手の多くは目立つことが好きですので、どうしても一番前で担ぎたくなります。

今頃、同好会に若い会員が増えてきました。性別、年齢、職業を問わず誰でも入会でき、粋がかっこよく、目立って楽しいのが若い人達にうけるのでしょう。神輿同好会は、高齢化の進む中、若がえりをしている団体の一つでもあります。

この原稿を書きながら、今年はこの神輿

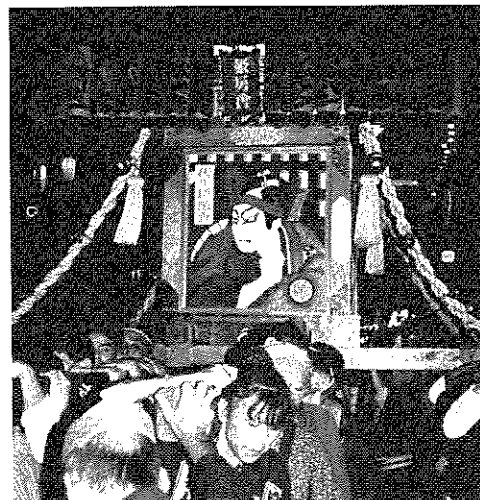
が担げるかと考えると、思わずニコリしてしまう私です。（かねこ よしのり）



江戸神輿 町会ごとに形、大きさがちがいますが、四方の鳥居が特徴



萬燈神輿 夜には神輿の中の照明で絵が浮き出ます



タスキ掛けの人が同好会の世話役

新人紹介

〈東京事務所〉

入 所 し て

金子 喜則

4月に入所した、東京事務所の金子です。3月末まで、公務員（8年間）生活を送ってきました。未だもって、公務員の甘さが残っています。私は、中央大学商学部（経営学科）を卒業し、埼玉県宮代町役場に勤務していました。

大学時代は、ローバークルー（ボーイスカウト千代田3団）に所属し、山岳縦走、ハイキング、スキー等の野外活動を中心に活動していました。特に尾瀬は、新入生歓迎合宿（雪中合宿）から毎年雪の残っている時期に行っています。学生時代の尾瀬の自然と現在の尾瀬の自然を比較すると、観光客の増加により、尾瀬沼、尾瀬ヶ原にある山小屋周辺の水質の富栄養化が進み、写真で見えるような形のいい水芭蕉が少なくなってきました。

役所時代は、交通安全、公害、防災、自治会関係など、直接住民の声を聞く仕事をしていました。公害・苦情は、近隣関係の問題が多く、昔から地元に住んでいる自分にとって、近所づきあいも難しくなってきたことを感じさせられました。

趣味は、山、スキーのほか、役所時代に始めた野球、ゴルフ、演劇鑑賞です。野球、ゴルフは、公務員の多くがやっています。演劇は、高校演劇を中心に年間30本ぐらい見えます。特に高校演劇は、自分が高校演劇発表会の照明係をやっていたため、これからも見続けていくつもりです。

学生、役所時代と遊んできたため、ARP A・Kの仕事に関する知識のない自分ですが、

努力しますので、よろしくお願いします。

（かねこ よしのり）



私のこと、あれこれと…

小西 典子

東京事務所の紅一点、初々しさのかけらもない新人の小西典子です。2月まで、かつては大阪では最大手だった某予備校で、生徒の世話や資料作成などをしていました。前の職場を選んだのは、人と直接関わる仕事がかつたからなのですが、何年か経つうちに、今度は何かモノを作ることで人に影響を与えられるような仕事がしてみたくになりました。で、今回何の因果かアルパックにお世話になることになりました。とはいっても、何の基礎知識もなく、“あなたの知らない世界”に飛び込んできましたので、一体何ができるのか見当もつきません。しかし、浪花女のド根性で何とかやってみようと思います。

さて、趣味は（と、突然方向転換をするのは得意です）音楽。主に、ジャズ、フュージョン、ロックですが、守備範囲はけっこう広いです。大阪にいた頃は、月平均3～4本のペースであちこちのコンサート会場に一人で出没しておりましたが、東京へ来てその数がグンと増えることは間違いありません。そうそう、こちらはライブハウスも多く、私の好きなミュージシャンもよく出演しているので、そっちの方にも顔を出したいのですが、どうも一人では入りにくくて…。どなたか、

東京に私と趣味の合いそうな、またそういう方面の知人・友人がいらっしゃいましたら、ご紹介下さい。仲間が欲しいっ！そして、今は鑑賞一辺倒ですが、お休み中のピアノとキーボードを1年以内には再開したいと思っています。あと、スポーツも好きです。これまたほとんど何でもOKですが、ここ数年は観戦するばかりなのが残念です。しかし、元・陸上部の小西といたしましては、いつかフルマラソンを走ってやるぞ、という恥ずかしいほど大きな野望があり、今回駒沢に住むことになったのを機会に、行動開始の予定ですが、さて、どうなることやら…。

ところで、東京へ来て約2週間、大阪生れの大阪育ち、生粋の浪花っ子の私メは、“ヒョージュンゴ”の洪水にもメゲず、大阪弁でまくしたてて日々を過ごしております。順応性の良い私も、まだ必要以上の緊張が取れず、若干控え目にしておりますが、生来の、そして30年間培ってきた、大阪のお笑い人的性格ゆえ、そのうちに東京事務所の上品そうなイメージを一人でブチ壊してしまいそうで、大いに不安な今日この頃でございます。

とりあえばこんな人間ですが、皆さん、よろしく願いいたします。

(こにし のりこ)

<九州事務所>

はじめまして

山崎 美加

始めまして！九州事務所新入所員の山崎美加です。22年間九州の空気を吸って見事な体格に仕上がりました。

特に大学4年間は、山と海に囲まれた長崎の大自然の中で思いっきり大学生活を楽しみ、小学校の修学旅行以来念願だった長崎の海岸線一周も、離島を除いてほとんど制覇してき

ました。交通手段は様々でしたが、原付バイクで走行中コンタクトレンズを片方落し、命からがら帰ってきたという怖い経験もしました。

そんな風で、ジーンズしかはいたことのない私が、毎日スカートをはいて通勤する姿を友達の誰か信じてくれますでしょうか。

ところで、私の短所の一つに「人見知り」という項目がありまして、夏休みを利用したアルパックでのアルバイト期間、自分を出せずに苦勞しました。今では自分の勉強になったと思っていますが、その時は相当苦しみ、自己改革を迫られました。

詳しく申しますと、大学の先生の紹介でアルパックの存在を知り、面接をかねて1ヶ月間アルバイトに来ていた時のことでした。

「自分の考えをちゃんと持つこと、その考えをちゃんと相手に伝えること、争いを恐がって自分を押し殺さないこと、そうしないと、自分が苦しくなる一方だ」ということをいやというほど味わったのでした。

そんな私にとって、アルパックの空気は少々怖いものがありましたが、甘やかさず、「自分を出す」大切さを教えてくださったアルパックでこれからも頑張っていこうと思っています。どうぞよろしくお願いします。

(やまざき みか)



新刊旧刊書評紹介

米山俊直著 岩波書店

「小盆地宇宙と日本文化」

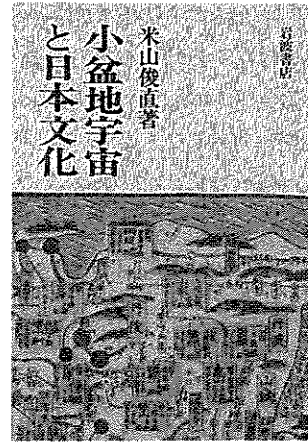
紹介 桃園 和徳

「地域文化拠点形成方策に関する調査」に関して、文化に関する文献に目を通してはいますが、殆どが日本の文化を全国一律に捉えた展開となっています。対して、米山俊直先生の近著である『小盆地宇宙と日本文化』は、文化人類学者としての研究の中で感じられた「日本文化は本当に単一だろうか？」という素朴な疑問を足掛かりとして、日本文化を見直し、その地域性を考え、地域単位としての世界を我が国民学（文化人類学）の原点となった「遠野物語」における地域文化とその風土形成を新たに見つめ直すことを出発点として考察された成果をまとめられたものです。

本書は、小盆地宇宙論に至った考察を行った後に、先生の交友関係を下にしながら、奈良盆地、亀岡盆地、篠山盆地、綾部、福知山、峰山、それぞれの文化についての考察を行い、最後に小盆地宇宙論の展開における日本の地域文化形成への考察がなされています。

著者が言及している視点には、次の8点があります。

①日本が単一民族国家という「思い込み」は、明治政府の国民国家を目標とした国家的な誘導によるものである。②日本列島の気候地形の多様性が、日本に居住する人間の住み場所を多様にしてきた。③長い日本の歴史から多様な地方文化が存在していたと想定される。④日本列島の歴史には、中央集権と地方分散が交替して認められる。⑤近代日本の統合以前には、およそ百を数える地方的な社会文化的な統合（小盆地宇宙）があり、日本列



島の文化単位であった。⑥日本には小盆地宇宙とそれに支えられた二つの中央があったといえ、日本文明は楕円構造をしているといえる。⑦近代の強力な中央集権体制は、首都東京への人やもの、情報の集中をすすめてきた。⑧小盆地宇宙に対立する概念である平野宇宙は殆ど存在していなかった。

この様に本著は、従来の日本文化に対する思い込みを修正し、日本の地域的多様性を再認識し再評価し、画一化しつつある東京文化に對置する地域社会に視点を当てることで、今後の日本社会のあり方や国際化のあり方を考える糸口を見開いてくれる著書の一つであると言えます。

この他に、日本文化の本質について興味のある方は、「日本文化のかくれた型」（岩波書店）、「日本文化をデザインする」（有斐閣）、「大衆の文化」（有斐閣選書）等を参照されたら如何かと思います。

（ももぞの かずのり）

まちかど

八坂の塔からみた
景観論争建造物

糸乗 貞喜

京都市内のいたるところでマンション騒動が起っている。そのほとんどが節税と資産運用をねらったワンルームマンションで、東京などで売り出されている。

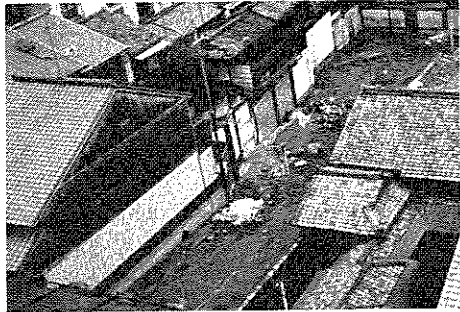
その中で最も有名な事件となっているのが八坂の塔のきわにある計画（写真①この細長い土地にマンションが計画されている。それに対して写真②のような張紙が各戸に張り出されている）。

明治以前には京都所司代が見張り用に使っていたといわれる八坂の塔は、京都の歴史を眺めてきていると同時に東山のシンボルとして眺められもし、景観論争の核となり、古都の風景の守り手ともなっている。

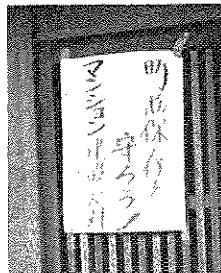
日頃見なれてしまうと意外な感もするが、風景としてみれば当然ともいえるこの霊山観音（写真③）も論争となった。最近建った東山ぎわのマンションも（写真④）問題になった、今八坂の塔の上からみると、そこそこにおさまっている。この京都タワーも大論争になった（写真⑤）。今後も色々問題が起り、それを八坂の塔が見守りつづけることだろう。

（いとりのり さだよし）

写真①



写真②



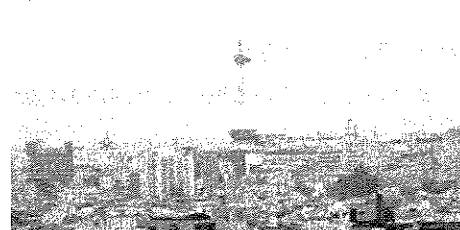
写真③



写真④



写真⑤



アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

| | | | |
|---------------|------|---------------------------------------|---|
| 本社 | 〒600 | 京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階) | TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764 |
| 京都事務所 | 〒540 | 大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館) | TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478 |
| 大阪事務所 | 〒460 | 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階) | TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225 |
| 名古屋事務所 | 〒402 | 東京都港区芝大門2-3-14 (一松ビル1号館402) | TEL (03) 437-3405(代) FAX (03) 437-3407 |
| 東京事務所 | 〒810 | 福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階) | TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673 |
| 九州地域計画 研究所 | | | |